

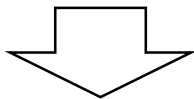
試行の目的の整理

・・・試行する目的を再確認します

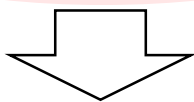
推進会議の目的

目的①

計画の推進方策や
緑、公園等に関する課題についての
提案及び助言



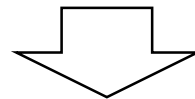
課題がわからないと
提案・助言をすることができない



自分たちでなにかやってみることで
課題が見え、提案や助言ができる

目的②

グリーンプランの進捗状況の
点検・評価



例年下半期に実施
(本日の議事(3)で説明します)



アクションプランの検討
(第四期から継続)

第五期までに出了意見のまとめ

アクションプラン案に関する推進会議意見及びブラッシュアップ案

資料5

推進会議意見

① ツアーイベントの実施時間を短くする

- ・気軽に参加できるように
- ・子供が飽きないように

② ターゲット層を絞らず、単発で終わらせない

- ・様々な層の参加を促す
- ・コンセプトを明確にする
- ・単発で終わらせない

③ 地域を巻き込み、区全体へ広げていけるようにしたい

- ・区全体へ「自分ごと化」が広がるように
- ・地域を巻き込みたい
- ・緑を守り育ててきた人に注目をするべき
- ・教えたい・伝えたい人に活躍の場を
- ・物見遊山で終わらせない
- ・協働を盛り込むとよい
- ・若い力を取り込むとよい
- ・ツアーイベントを周知・拡散すべき
- ・「組織」の他「人」とも連携を
- ・地域の担い手を作る
- ・親父の会に連携をもちかけてみては

④ 自然を体験できるイベントにする

- ・食べることで自然を体験できる
- ・地域の特徴を紐づけると強く印象に残る
- ・スラックライン等自然の中での遊びを
- ・SDGsの「健康と福祉」と緑に関連する

⑤ 板橋のイメージを覆すキャッチーなデザインが必要

- ・板橋のデザインはダサイ
- ・デザイナーの力を活用すべき

ブラッシュアップ案

土日開催、子供の体力、集中力の面から、コンパクトな内容にする

「交流」、「健康」など、ツアーイベント毎に異なるコンセプトをもたせ、定期的に実施する

赤塚植物園を活用し、新たな地域の担い手を育成する。また、地域や区民団体で、緑を守り育てている方、教えていきたい方、中高生等の若い方から力を借りて、今度は参加者が情報発信したり、区内の様々な地域でアクションを起こしていく力を与えられるような、参加・育成形ツアーイベントにする。

自然を用いて遊んだり、その地域特有の名産物を食したり、湧水などの地理的特徴を生かしたツアーイベントにする。緑の中での健康を取り上げる

ローカルデザイナー等にコンペを行うなど、お金をかけてでも、デザインに力を入れるべきである

赤塚植物園を活用しながら
検討可能なものから調整・実施していく

アクションプラン試行の準備

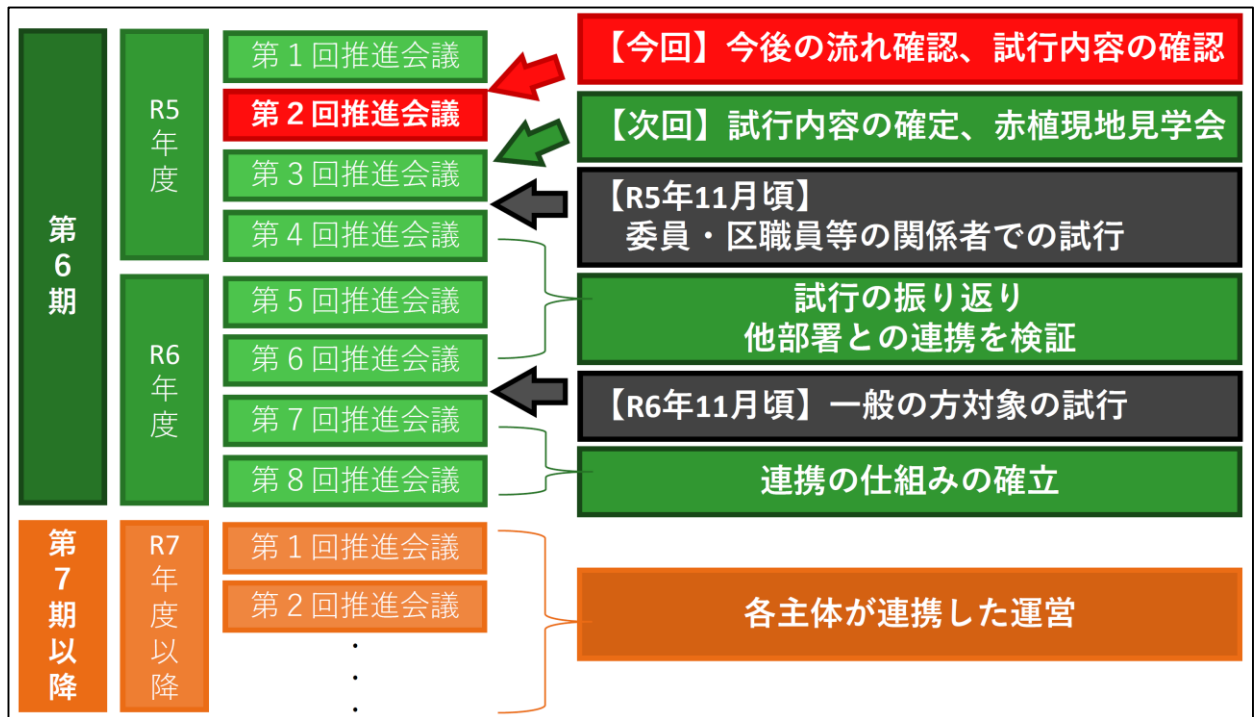
第四期からの検討経過を踏まえ、試行の条件を2つ設定しました

赤塚植物園周辺で開催

子ども向けのイベント

前回（第六期第2回推進会議）で紹介したテーマ

今何を検討するべきか見えるように、第六期の想定スケジュールをまとめました



前回（第六期第2回推進会議）で提示した想定スケジュール

前回推進会議での指摘と回答

指摘

アクションプランの試行で何を検証したいのか不明確である

回答

検証する内容を次ページのとおり整理しました。

行政がプログラムを作るのではなく、その分野に詳しい団体や個人を連携させるのが区の役割ではないか

最終目標をどこに置き、具体的に目指していくか、4ページのとおり整理しました。

試行に参加する委員の立ち位置が明確だと参加する意義が出てくるため、明確にしておく必要がある

プレイヤーではなく、試行の評価をする立ち場で参加していただきたいと思います。

アクションプラン試行での検証内容

アクションプランの目的

これまでの経緯を踏まえ、アクションプランを行う目的を整理しました。

- ①赤塚地域の持つ魅力を多くの人に知ってもらう
- ②多くの人に赤塚地域を好きになってもらう
- ③赤塚地域の人に、自分たちの町に誇りをもってもらう

検証する内容

アンケート（参考資料3－1～3－3）参照

目的が達成できているかを確認するために検証することをまとめました。

①赤塚地域の持つ魅力を多くの人に知ってもらう

検証 1

子どもたちに赤塚地域の魅力を伝えられる内容だったか
（参加委員がイベントの状況を確認して検証）

検証 2

子どもたちに赤塚地域の魅力が十分に伝わっていたか
（参加者へのアンケートにより検証）

検証 3

対象を子どもに絞ることで、
赤塚地域の魅力をより効果的に発信することができたか
（従来の平日開催のガイドツアーと比較して、より効果的に発信できていたか）

②多くの人に赤塚地域を好きになってもらう

検証 1

参加者に「また来たい」と思ってもらえているか
（参加者へのアンケートにより検証）

検証 2

継続して魅力を発信していくことができるか
（協力者へのアンケートにより検証）

③赤塚地域の人に、自分たちの町に誇りをもってもらう

検証 1

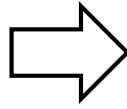
協力者（＝ゆくゆくは地域の人）が満足のいくイベントだったか
（協力者へのアンケートにより検証）

アクションプラン試行の過程で見た課題

第四期当初の取り組み

検討対象：施策7

自分たちでなにかやってみることで
課題が見え、提案や助言ができる



第六期第2回で示した目標

連携の仕組みの確立

施策8“みどりと人をつなぐ
仕組みづくり”に近い・・・

4年間検討を重ねる中で、
取り組みの視点が変わってきました

第六期第2回会議で事務局が感じたこと

●「施策7」を対象としてきたが、検討を進める中で「施策8」に近いものとなってきた

現在板橋区には中間コーディネート組織はなく、地域との連携も含めた公園緑地の利活用の活性化をどのように行っていくかは継続の課題となっています。

●「施策8」の重要性

地域との連携の仕組みを確立することが、公園緑地の魅力向上に繋がると考えています。地域との連携を図れるような、中間コーディネートの機能を持った団体が重要であると感じています。

●「区の役割」、「推進会議の役割」を明確にするべき

区の役割 = 中間コーディネートの機能を持った団体の導入

推進会議の役割 = 区が施策を推進する中での課題に対する提案や助言

中間コーディネートの機能を持った団体

中間コーディネートの機能の持たせ方はいくつか考えられます。

区職員の直営による運営

板橋区〇〇公社の設立

指定管理者制度の導入

中間支援の業務委託

板橋区の現在

●赤塚植物園の指定管理者導入を検討中

赤塚植物園に、将来指定管理者を導入することを検討しています。

その指定管理者に、中間コーディネートの機能を持たせることができないか検討しています。